

# 日本災害看護学会先遣隊 令和6年8月日向灘地震活動報告

2024年8月11日(日)

活動隊員：藤田さやか、三橋睦子

1. 活動日時 2024年8月11日(日) 9:00~15:30
2. 活動場所 宮崎県日南市
3. 被害状況

8月8日16:42日向灘(深さ31km)でM7.1の地震が発生し、気象庁が南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)を発表した。宮崎県日南市で震度6弱を観測し、8月11日12:00現在、震度1以上を観測した地震が22回発生している<sup>1)</sup>。余震による津波の危険性の報告はない。日南市では地震により4名の軽傷者が発生し、発災後は5ヶ所の避難所に最大45人の避難があった<sup>2)</sup>が、10日17時現在、避難者はいない。また、市内で21ヶ所の建造物被害の報告がされている<sup>3)</sup>。

- 1) 気象庁, 日向灘の地震の最大震度別地震回数表(令和6年8月11日12時現在)  
[https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/2024\\_08\\_08\\_hyuganada/hyuganada\\_jishinkaisu.pdf](https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/2024_08_08_hyuganada/hyuganada_jishinkaisu.pdf)
- 2) 日南市, 被害状況, 8月8日19時30分現在の状況  
<https://www.city.nichinan.lg.jp/material/files/group/1/higaijoho202408081930.pdf>
- 3) 日南市, 被害状況, 8月10日17時現在の状況,  
<https://www.city.nichinan.lg.jp/material/files/group/1/higaijoho202408101700.pdf>

## 4. 天候

晴れ時々曇り(降水確率:10%)、最高気温34度、最低気温26度

## 5. 活動の実際

7:42 日向灘でM4.5の地震が発生し、震度3の揺れを感じたが、津波の危険なし

9:00 宿泊場所を出発し、日南市に移動

10:00 T病院の被害状況確認

宮崎大学からの情報提供により、建物被害の報告をしているT病院を視察した。休業日であり、外観から建物基盤のズレと外壁や床面タイルの割れなどを確認した。外壁についてはすでに修復工事中であった。隣のガソリンスタンドで情報を得たところ、病院は砂地を埋め立て津波避難ビルとして建てられたため、地下50mほどに基礎が設置されているようであるが、今回の地震で10cmほど地盤沈下したため、基盤にずれが生じている状況とのこと。発災時は病院のスプリンクラーが作動し、水漏れもあったとのこと。ガソリンスタンドに被害はなく、当日から営業を継続していた。民家では屋根瓦が落ちる被害が数件あったことなどのお話を伺った。震度6規模の地震の経験はなく、住民同士で発災時の状況について話をする様子が見受けられたが、自助の範囲内で対応をし、通常の生活が営まれていた。

11:00 ふれあい健やかセンター(日南市保健福祉総合センター)

発災後は29ヶ所全ての避難所が開設されていたが、他の避難所は9日17時時点で全て閉鎖されており、当施設に集約されていた。避難所は社会福祉協議会や健康増進部署のある建物に設置され、市の福祉課が担当である。担当者によると、市内の人的被害は2名のみの報告であり、避難者は数名でいずれも夜間のみ宿泊であった。食料なども備蓄は提供せず自給で賄っていたとのこと。避難場所にはテントと段ボールベッドが設置されていて、職員2名体制で待機している状況であった。社会福祉協議会と福祉課でボランティアセンター開設の是非

について検討中であったが、台風も多い地域で、これまでと同様に住民同士で修繕作業をしていこうとのこと。今後のネットワークとして、社会福祉協議会の担当者と顔合わせをし、辞去した。

11:30 発災後に最も避難者数が多かった宮浦地区の避難所に移動したが、途中、落石による国道の通行止めのため引き返した。すでに避難所としては閉鎖中で休業日のため連絡はとらなかった。

14:30 宮崎市に戻って活動のまとめを行い、翌日の活動計画を立て、活動を終了した。

## 6. 考察

日南市は台風通過が多いため高層の建造物が少なく、海岸沿線に位置していることから、津波による甚大な被害が予測される。今回の地震では、人的被害もほとんどなく、現在は通常通りの生活が営まれている様子であった。休日ではあったが、地域の避難拠点となりうる病院や国道の復旧工事は進められていた。市内の被害状況の把握ができている状態で、全て自助の範囲内で対応可能な状況であったため、さらなる災害発生時の情報・支援ネットワークの構築を目的として活動を行なった。

## 7. 参考写真

